

コミミズク *Asio flammeus* の 罫の出入り時間

石川 勉

東京湾奥部に位置する幕張埋立地から京葉港埋立地にかけて、埋立完了後の1976年から毎年、比較的多くのコミミズクが越冬している。例えば1986年2月24日には幕張埋立地の罫で11羽、同日京葉港埋立地の罫で9羽を観察している。本稿ではコミミズクの罫の出入り時間について報告するとともに、日長時間や天候との関係について考察する。

調査地と方法

調査地である幕張埋立地は、千葉県千葉市の海岸部に位置し、北側は習志野市街、南側は東京湾奥部、東側は検見川、西側は京葉港埋立地に接して面積は778aである。埋立完了から現在に至る生息環境の変遷については、京葉港埋立地に関する記述(石川1977, 1981, 1985)を参照されたい。

調査は1986年1月初旬から4月初旬までの間にほぼ週一回、全部で22回行った。罫入りについては、日の出時刻の90分から120分前に調査地へ行き、日の出までに罫へ入る個体数と時間を記録した。罫を出る個体については、日没時刻の20分から120分前に調査地へ行き、日没後30分から40分の間、個体数と時間を記録した。罫入りは10日、罫立ちは12日のデータを得ることができた。なお、日の出、日没時刻は東京標準時によった。

結果と考察

罫の出入り個体数をみると、1月は最高15羽・最低7羽、2月は最高13羽・最低4羽、3月は最高7羽・最低2羽で個体数には変動がみられた。月ごとの個体数の平均は1月11.6羽・2月8羽・3月4羽であった。

罫入りの最も早い例は、1月27日の日の出前56分であり、最も遅い例は2月24日の日の出前13分であった(図1)。日の出の10~60分前に罫に入るとみてよいだろう。

1日の罫入り時間の間隔をみると、1月27日には28分間に15羽の罫入りが行なわれ、2月24日には25分間に11羽、1月20日には24分間に11羽と、個体数の多い日には罫入り時間に幅がみられたが、3月17日には2分間に2羽、2月10日には11分間に4羽、3月3日には10分間に5羽、2月17日には9分間に7羽と、個体数の少ない日には短時間で罫入りを終えている。

すべての個体の罫入り時刻にもとづいて総平均時間を求めると、日の出前29.4分であった。これを1日ごとの罫入り平均時間と比較し、またその日の天候と比較すると、総平均時間より早く罫入りした日は、晴の日は3回、曇の日は1回、遅く罫入りした日は、晴の日は3回、曇の日は3回であった。また、晴の日の総平均時間は日の出前30分、曇の日は28.5分であり、天候による罫入り時間の差はほとんど認められなかった。

1986年11月10日受理

〒103 中央区日本橋浜町2-49-4 (千葉県支部)

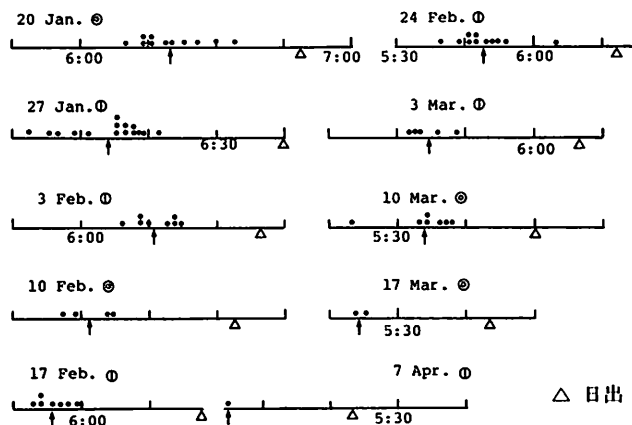


図1. コミミズクが塹へ入った時間と個体数。黒丸1個が1羽、矢印は平均時間を示す。
Fig.1. The time and number of *A. flammeus* returning to the roost.

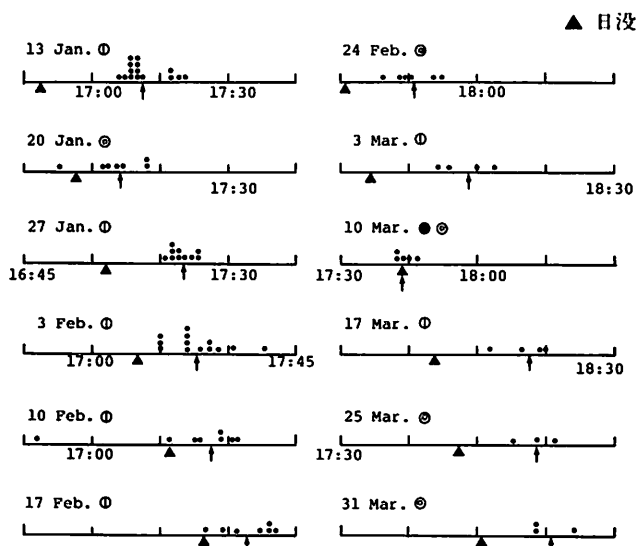


図2. コミミズクが塹から出た時間と個体数。
Fig.2. The time and number of *A. flammeus* leaving the roost.

塹を出るのが早い個体の例は、3月10日の日没1分前、2月10・17日、3月10日の日没時等がある。遅い個体では1月13日の日没後31分であった(図2)。日没後30分程度で塹を出るものと考えられる。しかし、1月20日は東京湾で発砲した猟銃の音、2月10日は塹近くで行なわれた道路工事の音に驚いたため、それぞれ1羽が日没前に塹を飛び出した例があった。したがってこの2羽は考察からは除外した。また、この両日は他の個体も非常に警戒していたようで、塹を出る時間が早いのが認められた。

1日の塹を出る時間の間隔をみると、2月3日には13羽が23分間かけて出ているが、1月13日は15羽が14分間で出ている。また、2月17日は7羽が16分間かけて出ている、塹入りの時のように個体数の多い日に間隔が長くなるようなことは認められなかった。

塹入りでは1日の最初に塹へ入る個体から最後の個体までの平均時間は16分であったが、塹を出る平均時間は11.8分と若干短かった。この差は塹を出る個体が同一場所にいるの

に対し、罫入りは各々の個体が広い採食場に分散しているために、時間に開きができるものと思われる。

罫を出る個体の総平均時間は、日没後15.1分であった。これを1日ごとの罫を出る平均時間と比較し、また、その日の天候と比較すること、総平均時間より早く罫を出た日は、晴の日は2回、曇の日は3回、遅く罫を出た日は、晴の日は4回、曇の日は1回であった。また、晴の日の総平均時間は日没後16.14分、曇の日は11.40分であり、晴の日の方が罫を出る時間が若干遅くなるのが認められた。

罫を出るのは日没後14分頃、罫入りは日の出前30分頃に集中するが、調査期間中、日の出は毎週6.5分ずつ早くなり、日の入りは6分ずつ遅くなっているため、その分罫入りは早くなり、罫を出る時間は遅くなる。したがって日長時間が長くなるにつれて、コミミズクの活動時間が短くなるのが認められた。

文 献

- 石川 勉. 1977. 谷津干潟の鳥. 野鳥42: 528—533
 ——— 1981. 東京湾の埋め立てと渡り鳥. かんきょう6(3)82—83.
 ——— 1985. コミミズクの鳴き声について. Strix 4: 67—69.

The Time and Number of Short-eared Owls flying from/into a Roost

Tsutomu Ishikawa

From January to April 1986, I observed a roost of the Short-eared Owl *Asio flammeus* on reclaimed in Chiba Prefecture. In the evening the owls started to fly from the roost within 30 minutes after sunset. In the morning they came back to the roost 10-60 minutes before sunrise. There appears to be no relationship between the weather and the time when the owls leave or return to the roost.

2-49-4, Hamacho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103